

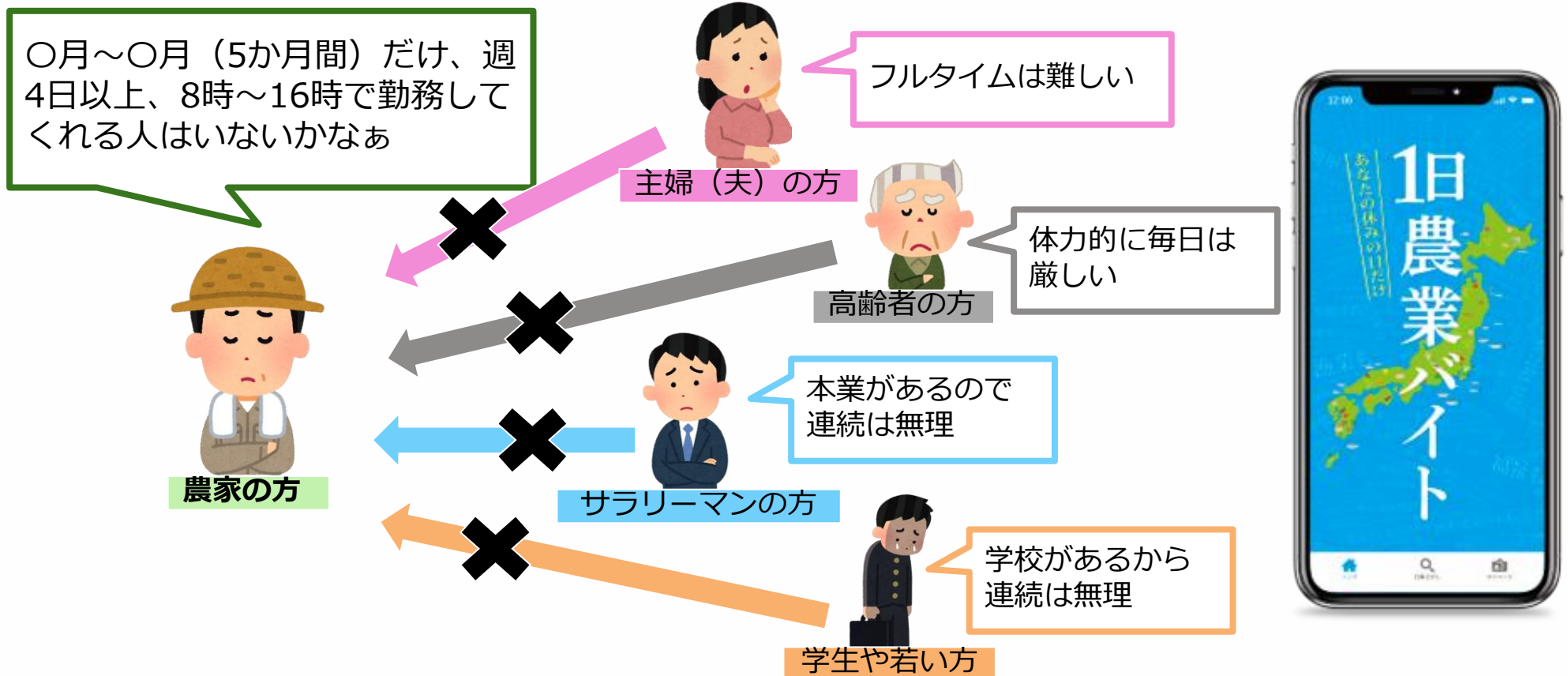


ディワークの機能説明・実績・今後の展開について

Kamakura Industries株式会社

これからの人手不足対策

アプリを通じて1日単位で農家と求職者を結びつける仕組み



1日単位であれば、

いままで農業参加できなかった層も参加できる

マッチングの実績

■ 募集人数 ■ 成立人数 ■ 応募人数

2022年

82,485人

2021年

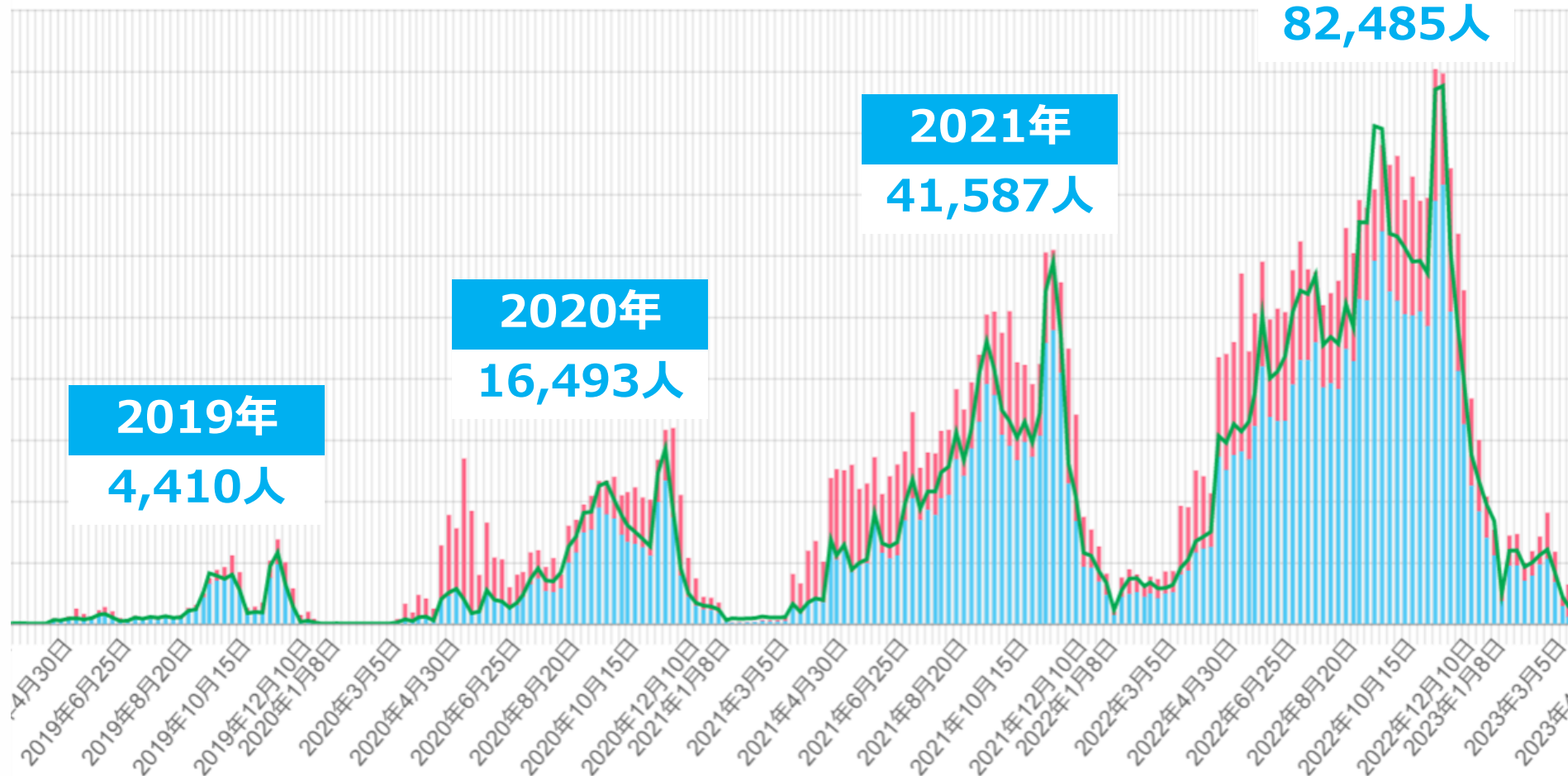
41,587人

2020年

16,493人

2019年

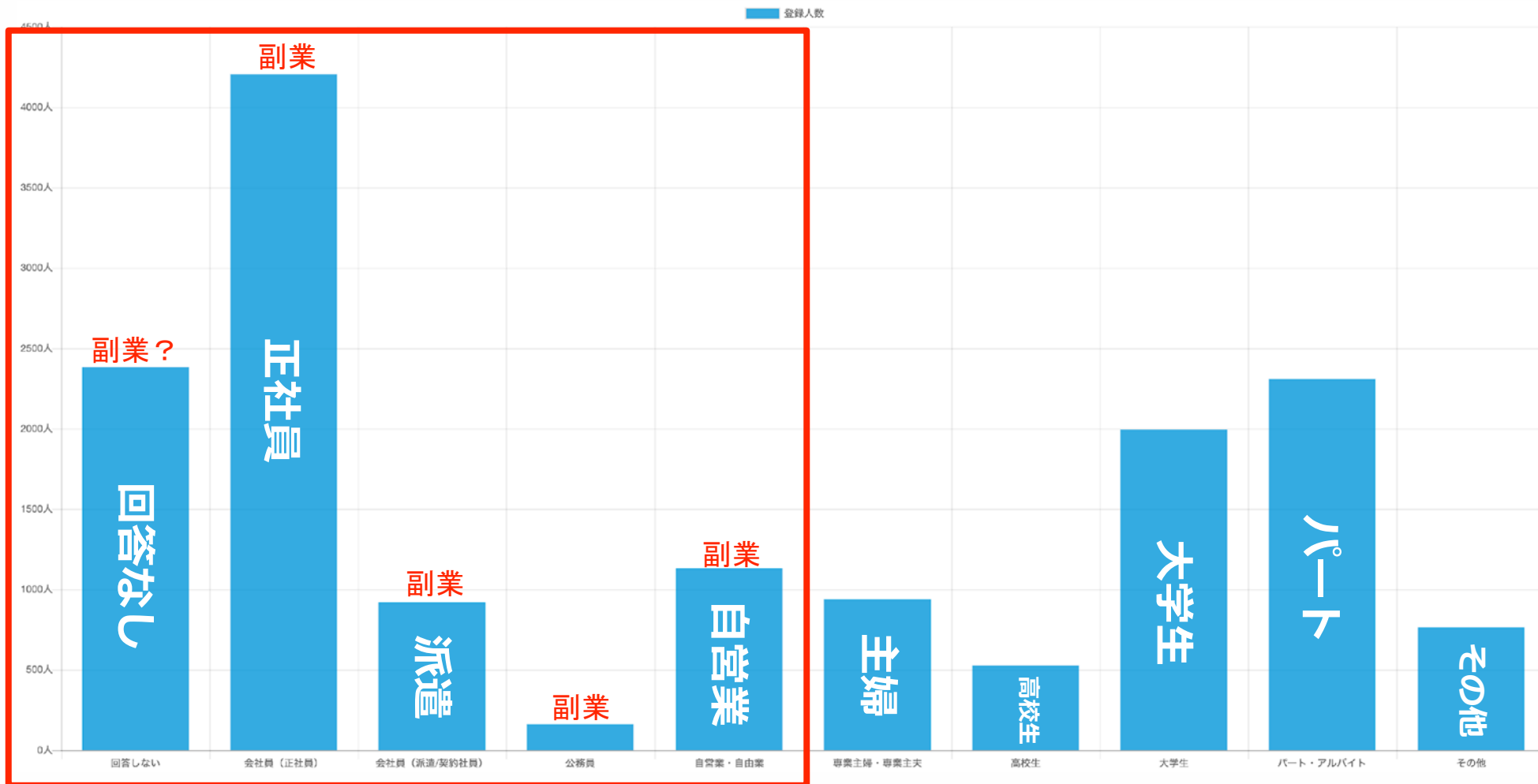
4,410人



- 展開エリアとともに急速に拡大中
- 2023年は昨年の倍のペース！

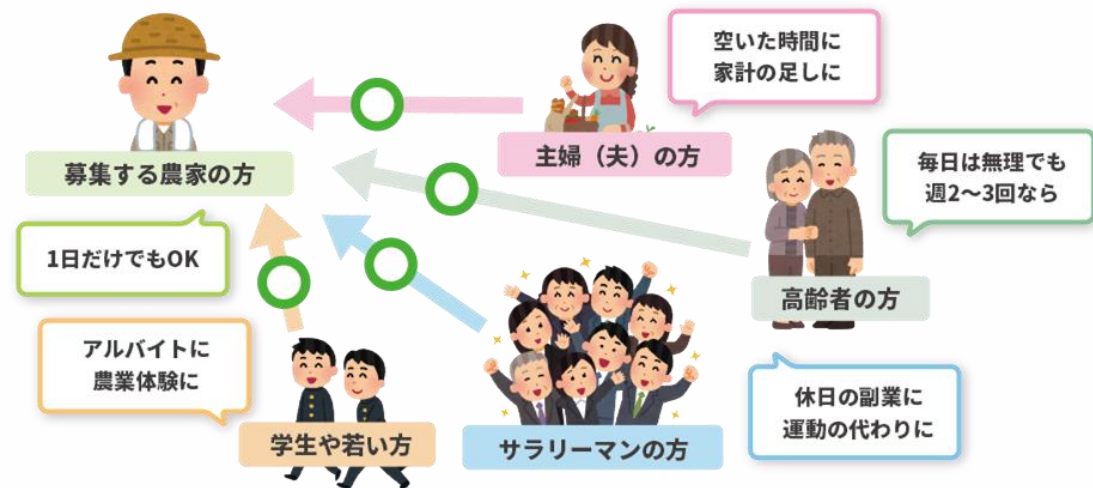
どんな人が働きにくるの？（本業の職業）

副業による農業参加が新たな労働力となっている結果に



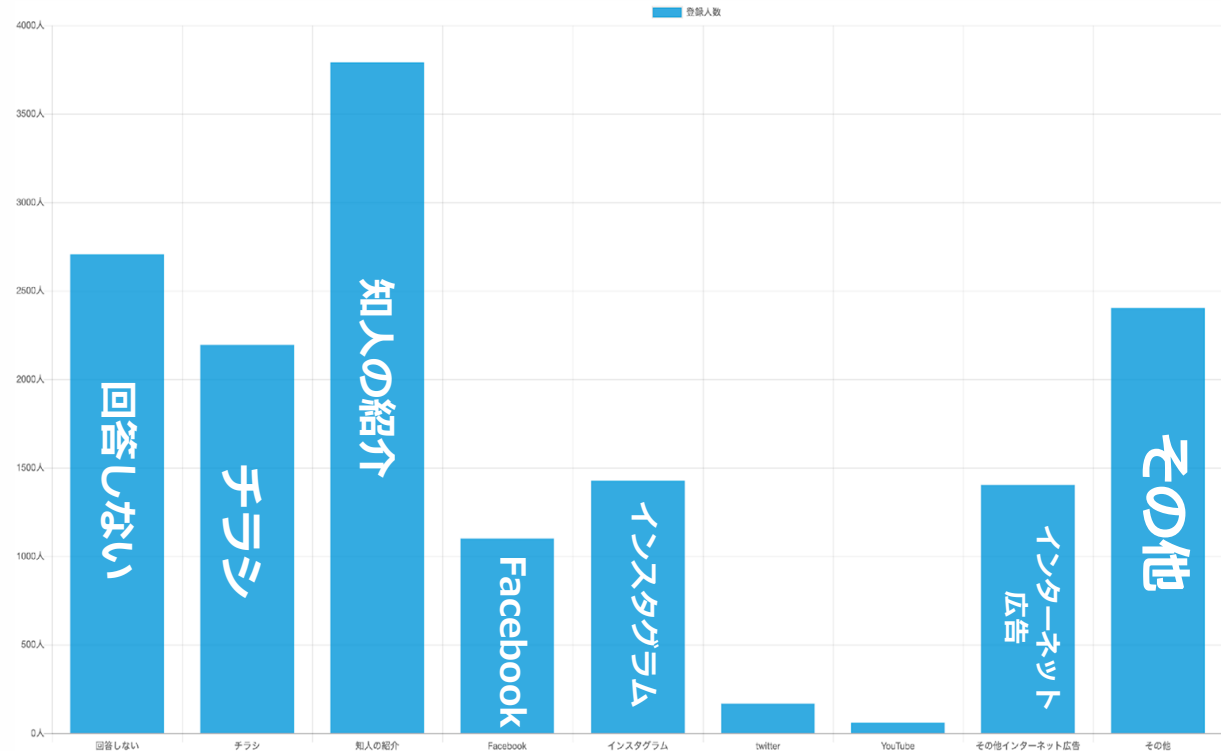
よく心配されること (仕事を覚えないのでは?)

- 地域一丸となって**求職者を「育てる」システム**です。
- 求職者の履歴はアプリ上で確認できます。時間はかかりますが**地域に経験者が増えていきます**。
- 「慣れが必要な仕事はパートさんに任せて、その他の仕事を任せる」「従業員とペアで作業してもらい、こなせる量を増やす」など、**うまく使えば戦力**になってくれます。
- **相性の合う方を見つけたら**、募集を**限定公開**（特定の範囲にのみ募集を公開）。



よく心配されること (この地域に求職者がいるの?)

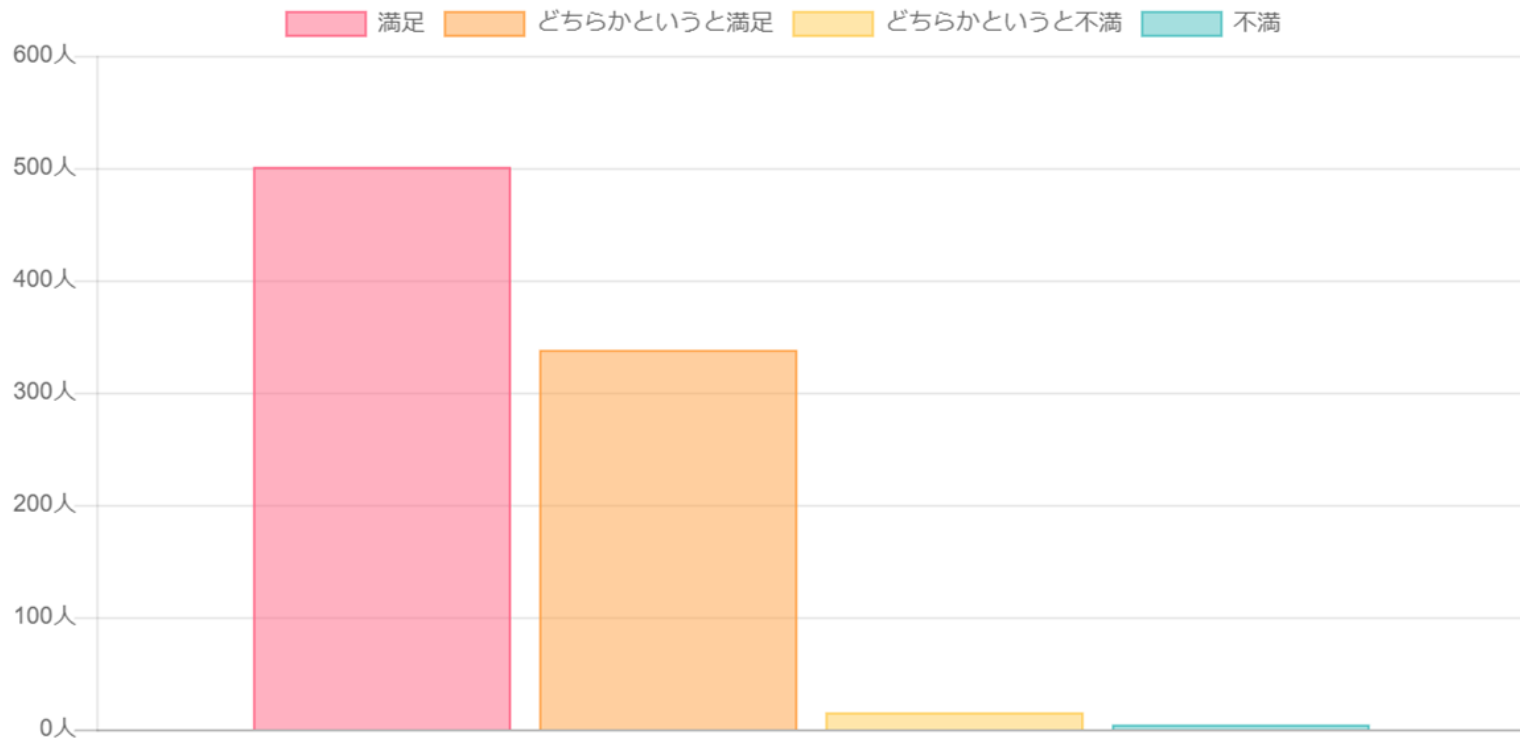
- 最初から求職者が大勢いる地域はありません。
- 農場でいい思いをすれば、リピータになりますし、**口コミで求職者が増えていきます。**
- つまり**生産者の対応次第**で求職者が増えます。
- 全国で**求職者数47,000人以上**（2023年9月時点）
- 帯広市（人口16.9万人）は3,500人以上が求職者として登録。単純計算で**50人に1人**が登録。



デイワークを知ったきっかけ

デイワークを活用するメリット①

- 生産者からの労働力支援についての要望に応えることができる。
- 引いては所得向上につながる。



利用満足度：生産者へのアンケート結果より

デイワークを活用するメリット②

- 負担が少ない。
- 問い合わせの対応は運営で行う。
- 自動マッチングなので、間を取り持つ必要なし。

- スマホが苦手な生産者が募集かけて応募がきてもそのまま放置
- 15分前集合といって早めに呼び出す（労基法違反）
- 勤務時間終了後に掃除をさせる（労基法違反）
- 性別や年齢を限定した募集を出す（男女雇用機会均等法違反）
- 仕事ができないという理由で給与を払わず帰宅させる（労基法違反）
- 出来高制と言って実働8時間で3800円の日当（労基法違反）
- 求職者に対するセクハラ・パワハラを繰り返す（利用停止）
- 求職者に宗教の勧誘をする（利用停止）

デイワークを活用するメリット③

- JA職員の副業解禁のツールとして活用できる。
- 生産者の支援と若手職員の研修を両立。
- 行政の副業解禁の取り組みも推進。



職員の副業解禁

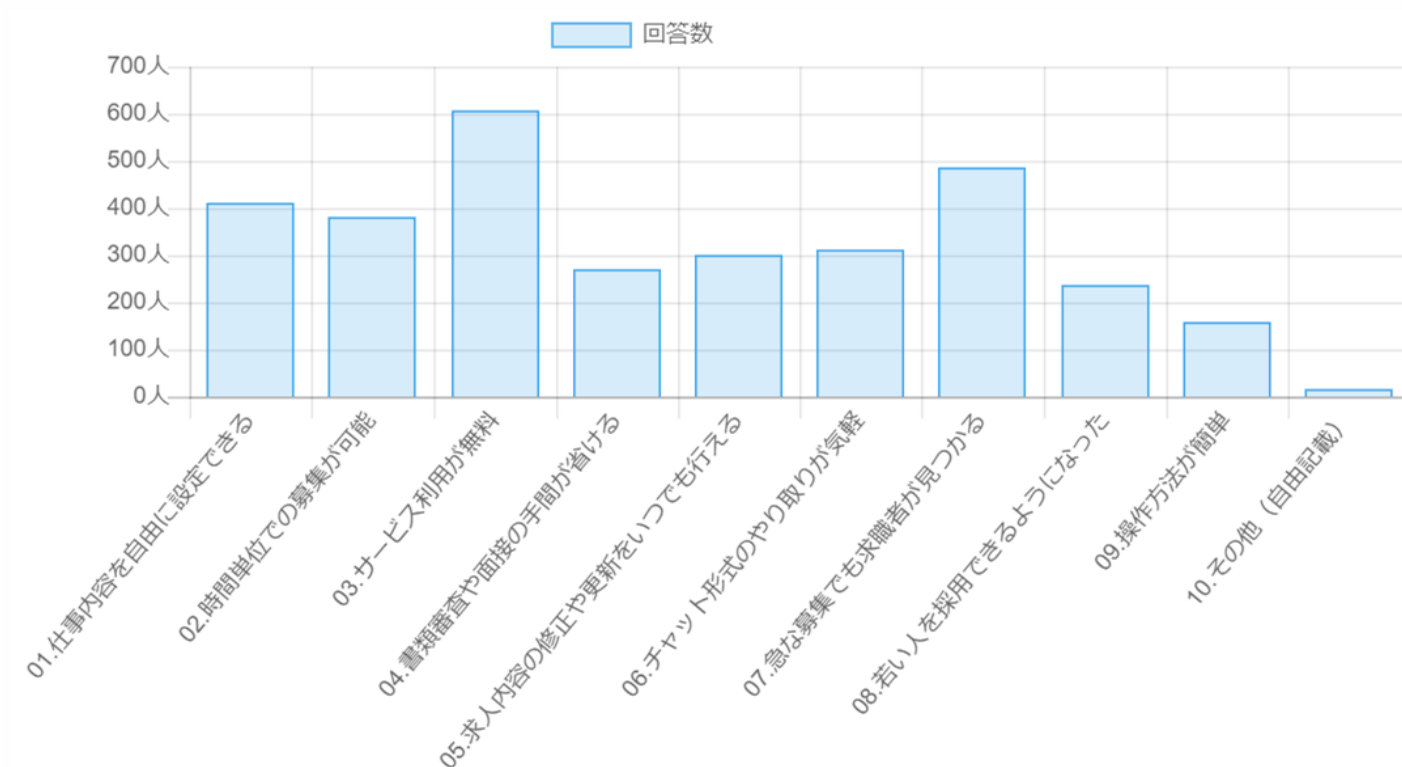
デイワークを活用するメリット④

- 地域の活性化につながる
 - 「職業」としての農業の入口に
 - 農業・食・地域への理解醸成の場に
- 現在はデイワークから**農場の職員**になりました（30代・男性）
 - デイワークで働いてから農業に興味を持ち、**新規就農**をすることになりました。（40代・男性）
 - 果樹の**新規就農の準備段階**なので、引き続き自分の畑の管理をしつつ、デイワークを通して収入の確保といろいろな方と農業を楽しむことを継続していきたい（30代・男性）
 - **農家の嫁**になって働きたい（30代・女性）
 - 仕事としてだけではない**学びのある関わり**までできて、やはり**神アプリ**だと思います（50代・女性）

今後の利用について：求職者へのアンケート結果より

1日バイトアプリ比較

- 全てのビジネスは手数料で成り立っている
- 他のアプリは30%の手数料
- デイワークだけが新しいビジネスモデルに挑戦（手数料0円）



活用してよかったこと：生産者へのアンケート結果より

今後の課題

- 面接がないため、労働者の作業経験や取組姿勢にバラつきが大きい
 - 突然又は無断での作業キャンセル・欠勤等がある
 - 農作業経験の少ない人の応募が多く、作業が想定したほど進まない
- 不満だったこと：生産者へのアンケート結果より



不満だったこと：求職者へのアンケート結果より

デイワークの今後の進化

- 給与明細の出力
- 源泉徴収票の出力
- 労働条件通知書の出力
(2月末実装済)
- 日本中の企業の副業の場に

大手企業「農で副業」実証

1日単位、アプリ活用

長野県と山形県で、大手企業で働く社員が副業やボランティアとして農作業をする仕組みの実証が始まる。既に普及している1日農業バイトアプリ「daywork」(デイワーク)を活用し、気軽に参加できるうちに工夫、企業が関わることで生産者、働き手双方の不安を解消し、農業の働き手確保や関係人口の増加につなげたいと考えた。

農水省などが9日発表した。JA長野県農業労働力支援センターと山形県農業労働力確保対策実施協議会が、県産品の支援事業を活用し行う。両者は既にアプリを活用して、農家の働き手確保を進めている。同センター

長野・山形

実証実験の内容と役割分担(長野県の場合)

参加企業募集
作業説明資料の作成
JA長野県農業労働力支援センター
JR東日本 KDDI 中部電力
1日農業バイトアプリ「daywork」
環境整備や労務管理
受け入れ体制支援
法人向け機能を追加
求人 応募
生産者 企業の社員(働き手)

(JA長野県農業労働力支援センターの資料を基に作成)

出荷最盛期を目前に、低迷していたサクランボの相場が回復した。主力の山形県産の生育前進で、先月末から入荷が急増。潤沢で平年(過去5年平均)比で割安まで下げていたが、小売りの販売が活発化して相場が上昇した。

9日のサクランボの日農平均価格(各地区大手7卸のデータを集計)は、平年比6%高の1.279円、6

サクランボ相場回復 前進・潤沢でも販売活発

月上旬の日別取引量は、平年の1.5倍を超え、量に合わせ売り場づく

「daywork」の活用が進むが、同センターによると、受け入れ側の農家には、どんな人が来るのか分からない。「作業者への説明が難しい」との不安があった。県内では作業内容を説明する動画

の作成を進める。同県では、3企業以外にも実証実験に参加する企業を県内外問わず募る。同センターと3企業は26日、長野市でJA長野県ビルで説明会を開く。センター長を務める

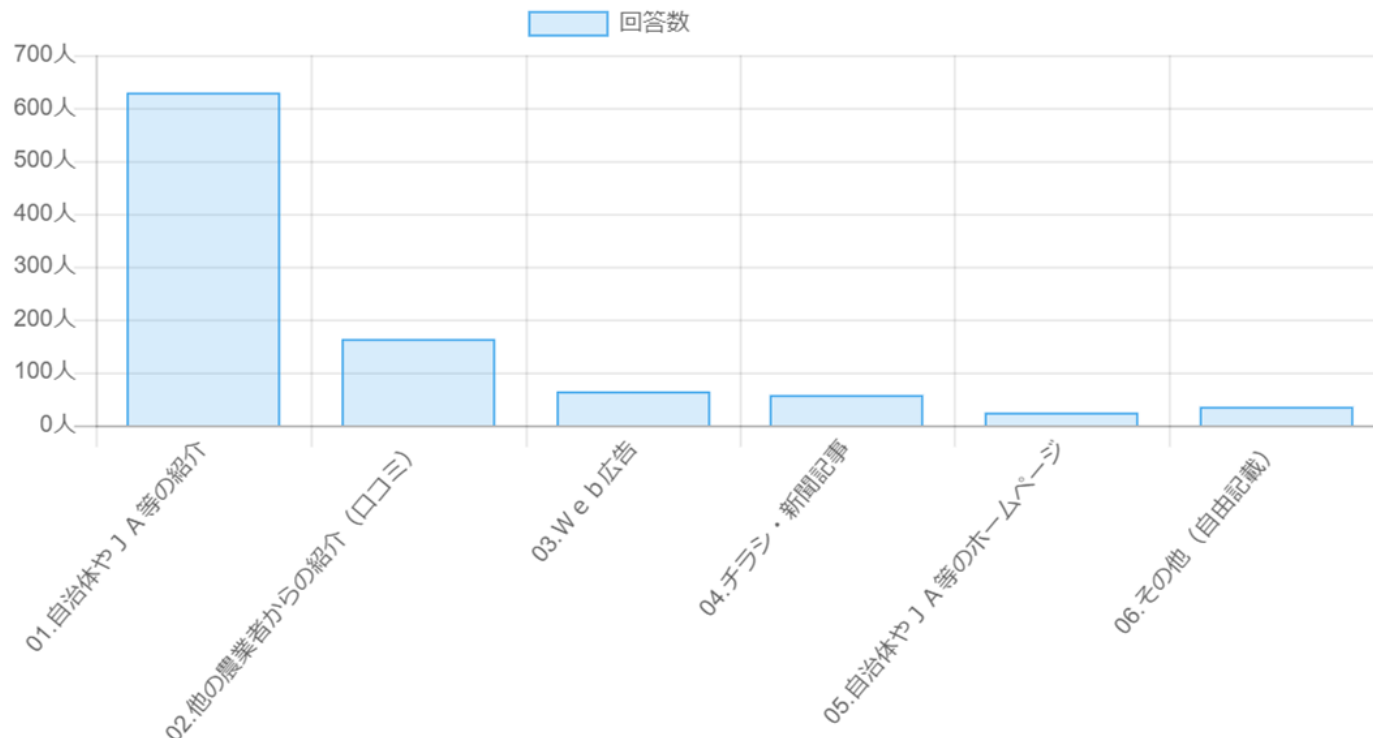
JA長野中央の新社正務部長は長野市で会見し、「企業を通じて多くの人が農業に従事してほしい。価格と関係を持ってもらったと考える人を増やし、農業・食料への理解につなげたい」と述べた。

りを早めるスバーがあり価格が上昇した。主産地の山形のJAでは、同じ前進傾向だった前年よりも3、4日早く出荷本格化した。主力となる露地物の「佐藤錦」について「平年比で連開前後早い、11月20日『さがびこ』(同JA)が見込む」。

天候不順で前年産まで年連続で少なかったが、今年産は総量が十分に見込まれる。ピーク入りで販売は順調となり、今後は一潤沢な入荷の中でも、平年並みの価格で推移する。(東京の青果卸)見通した。

導入する際にお願いしていること

- **管理者**として、管理画面から管内の生産者の利用状況の把握
(重大なトラブル発生時の対応含む)
- 生産者を集めた**説明会**の開催
- 広報誌やHP、チラシ等により**地域住民（求職者）へPR**



知ったきっかけ：生産者へのアンケート結果より